令和８年度第１回日本一の健康長寿県構想高幡地域推進協議会　議事要旨

１　日　時　　令和８年９月 18 日（金）18:30～19:45
２　場　所　　須崎第二総合庁舎　２階会議室
３　出席者　　・協議会委員 28 名のうち 26 名が出席
　　・事務局 10 名

◆出席委員（敬称略）
○専門団体
北川委員（会長）、杉本委員、瀧口委員、朝比奈委員
○保健医療福祉関係機関
岡村委員、市川（利）委員、諸隈委員、中川委員、本淨委員、大谷委員、森畑委員、西村委員、山﨑委員、市川（ゆ）委員
○地域組織団体・住民
熊田委員、戸梶委員、岩﨑委員、津野（修）委員
○行政関係
國廣委員、大﨑委員、森光委員（代理出席 竹下）、津野（誠）委員、中越委員、岡田委員、戸田委員、福留委員、福永委員（副会長）
◆欠席委員
髙橋委員

議事等概要

１　開　会
２　委員改選
３　会長挨拶
４　議　事

（１）須崎福祉保健所の令和８年度重点目標について

【事務局説明】

・須崎福祉保健所の令和８年度重点目標に対する取組の説明　資料１

Ⅰ　日本一の健康長寿県づくり
１　健康寿命の延伸に向けた意識醸成と行動変容の促進
２　地域で支え合う医療・福祉・介護サービス提供体制の確立とネットワークの強化
３　こどもまんなか社会の実現

Ⅱ　南海トラフ地震対策の推進
１　保健医療調整高幡支部体制の強化
２　市町ごとの災害時活動体制づくりの支援
３　災害時要配慮者対策の推進

（２）健康づくり推進部会の令和８年度活動報告

【熊田委員報告】

・健康づくり推進部会[地域・職域連携推進協議会]の令和８年度活動報告　資料２

（３）その他

【意見交換等】

○熊本地震を踏まえ、災害に対する取組や感じている課題等について

◆Ａ委員

加盟している全国身体障害者施設協議会を通じ、熊本地震後すぐに被災地の情報が入ってきた。多くの施設が被災し、天井が落ち、足の踏み場もない、停電・水道が止まるといった被害があったようだ。近くの防災センターに利用者を連れて避難した施設もあったようだが、避難先では排泄介助ができないということで、結局自施設に戻り、大変な思いをしたと聞いた。

協議会を通じ、水やおむつなど物資支援を行った。食材は十分あったようだ。

当施設は入所者の障害程度区分の平均が 5.6 と比較的重度。障害特性もさまざま。物資などは連携がとれる体制が整ってきているが、人材確保は難しい。被災する時間にもよると思うが、職員が少ない時間だと、片付ける時間もないまま、利用者を廊下へ出して廊下で生活したという話もある。広間や廊下で暮らすとなると、集団生活ができない方もたくさんおり、支援の難しさを感じている。当施設も、本来ならもっと個室を整備しておきたい。また、重症化によって医療的ケアが必要な方もたくさんいる中で、病院との連携がすぐにとれなかった場合、医師も看護師もいない中で、どれだけ持ちこたえることができるのか不安もある。

福祉避難所の指定を受けているが、施設利用者を支援する人材が少ない中で、災害対策とケアを一緒にやっていくとなると、福祉避難所開設の要請が来たとしても、人材確保ができないまま開設することは難しいのが現実だと思う。そういったこともあり、なかなか福祉避難所が開設できないのではないかと想像する。一般避難所に個室が整備されていれば、福祉避難所に来るまでの対応が可能ではないか。当施設でも日頃から訓練はしているが、不規則勤務でもあり、毎回全員が訓練に参加できるわけではない。人材確保が一番課題で、もし管理者や上司の不在時、残されたスタッフで対応していくことを想像すると、全職員へ対応をどう浸透させていくかということは課題だと感じた。

◆Ｂ委員

椿原町食生活改善推進協議会では、昨年西土佐診療所の栄養士に来てもらい、講話や防災食、パッククッキングの調理実習を行った。また、椿原町保健支援センター30 周年記念事業では、町が防災食として保管していた赤ちゃん用ミルクを使いスープと蒸しパンを作って町民に試食してもらった。大変好評だった。椿原町食生活改善推進協議会の再研修でも赤ちゃん用のミルクを使ってのミルクスープと、繊維食品を混ぜ込んだおむすびをみんなで作って食べた。

個人的なことだが、防災リュックに歯みがきセット、毎日の薬、懐中電灯、下着を入れているが、置き場所に悩んでいる。また枕元に靴を置くことも大事と思うが実行できないでいる。

先日町長等と話す機会があり、「役場に浄水器はあるか。」聞いたところ、あるという返答でほ

っとした。蓄電器を町と病院に備えていると聞いた。役場が毎月一日に発電機の点検をしていて、安心している。

先日の熊本のことをテレビを見て、高知県も早急に体育館に冷暖房を付けてほしい。蓄電池、浄水器を各地区の避難所にも置いてほしい。

高知県商工会女性部では、数年前島根県での豪雨発生時、ビニールのパックと衣類を送った。その後、部内で年に１回 100 円募金を始め、蓄えている。

◆Ｃ委員

須崎市や中土佐町では、災害時の要配慮者の個別避難計画を策定する際に、ケアマネジャーが一緒に取り組んでいる。避難にどのくらい時間がかかるかなども検討している。

高知県介護支援専門員連絡協議会でも、災害への備えと災害時の対応、復興支援について、講演と研修会を通じて取り組んでいる。11 月には、介護支援専門員連絡協議会の四国ブロック大会を高知で行う。テーマは「災害」であり、災害に備えた支援体制の構築、ケアマネジャーにできる災害時の地域支援について協議する。国や県の防災担当の方からの講演、四国４県の代表者によるシンポジウムを通して、それを具体的にどう活かしていけるのかを、市町村の方たちと一緒に考えて取り組んでいきたいと思う。

○その他意見

◆Ｄ委員

特に須崎市は非常に厳しい状況にあると思う。まず、津波が来たとき長い期間引かず、傷病者を少なくするための方策としても、重傷の方を多くは助けられないというのが現状。そうすると、まずは初動の避難が重要と思うが、須崎市内の施設の避難訓練の状況はどうか。避難訓練は実際にやっているのか。

◆Ｃ委員

事業所として、BCP 訓練を実施している。夜間を想定したものや、病院の中での水平避難は取り組んだことがある。火事等の訓練は定期的に実施しているが、大きな風水害に対しては、十分なことはできていないと思う。

◆Ｄ委員

須崎は高台が２ヶ所くらいしかないので、心配している。実際に須崎くろしお病院も浸水被害を受けるので、恐らく病院から避難しないといけない状況になるだろう。

【事務局説明】

・「医療・介護の連携」に関する取組の強化についての説明　資料３

４　閉会